

方針と重点	市の基本施策	学校の教育目標	資質・能力	育てたい	との関わり	基本施策	本年度新たな学校の重点		具体的な実践内容または観点 (手立てとしてどうか、または達成度はどうか)	評価 A S D	分析と改善点
重点・挑戦し続けるたくましさの育成 郷土高山に根ざし、未来を切り拓くための資質・能力を育む	①深い学び ②一領域の協働 ③生き生きと働ける学校づくり ④地域との協働・地域社会への発信 「なりたい自分」へ向かう個の見届け・一人ひとりの子に居場所をつくる	調和のとれた生徒の育成 心(みつめる)体(やりきる)知(もとめる)	多様なものの見方・考え方を大切にしたい想像力と創造力を主体的に発揮できる力	深い学びのある授業づくり	①	想像と創造の場を位置づけ、確かな学力をつける授業	アンケート項目「学習内容が理解できていますか」に肯定的な回答をする生徒を10%増やす。	A	○「学習内容の理解」に対する生徒アンケートの肯定的な回答は76% (5月)→91%(12月)と向上した。学習内容の理解は、学校生活の充実にも大きく関わるため、今後も個の把握に努め、アウトプットの場を設けながら学力をつける授業を推進する。		
				①	生徒が主体的に参画する「考えを深める交流活動の充実」	学習委員会を中心とした、生徒による「学び合い」の定義づけと評価を位置づける。アンケート項目「学び合いを意識した交流をしていますか」に肯定的な回答をする生徒を10%増やす。	A	○生徒委員会の取組を中心に進めた「学び合いを意識した交流」は78%(5月)→92%(12月)と向上した。交流の場と共に、自分自身で考え、試行錯誤することも大切にしながら、学びの主体が自分であることを自覚できる生徒、わからないことは「わからない。」と言える生徒、わからないことは主体的に解決しようとする生徒を育てていく。			
				①	個に応じた学びの充実	ICTを活用して、個別最適な学習を推進する。また、生徒が自分の学習の現状を自覚し、家庭での学習も進められる支援をする。アンケート項目「見通しをもって家庭学習を進めていますか」に肯定的な回答をする生徒を10%増やす。	B	○ICTを活用することで、授業内での個の状況を把握しやすくなっている。また、生徒自身がICTを活用して、比較する・調べる等の学習を進めることができた。見通しをもって家庭学習を進めていることに、肯定的な回答をした生徒は5月:77% 12月:86%であった。家庭学習は、個々の差が顕著であるため、学習方法の紹介等も一層進めていく。			
				②	「なりたい自分」の実現に向けた取組	なりたい自分に対する自己評価・他者評価の場を位置づけ、成長を自覚できるようにする。また、三者懇談のプレゼンを保護者からの評価の場として活かす。アンケート項目「なりたい自分に向けて行動していますか。」への肯定的な回答90%以上を目指す。	A	○生徒アンケートでは、90%以上が「なりたい自分」の実現に向けた取組の中で「自分を高めることができた」と実感している。また、85%以上の保護者が「なりたい自分づくりに向けた取組を認めたり支援したりしているか」という項目に肯定的な回答をしている。			
				②	レジリエンス力を向上に向けた取組	レジリエンス力向上のための授業プログラムを年間4回以上実施する。	A	○レジリエンス向上のためのプログラムを4回実施した。生徒アンケート結果では「楽観性」や「他者心理の理解」といったレジリエンスの力に対する肯定的な回答が向上した。次年度も、内容を工夫しながら継続して取組を進める。			
				②	安心できる居場所づくり	チームで迅速に一人一人に適切な支援や指導を行う。アンケート項目「学校で安心して生活できていますか」への肯定的な回答90%以上を目指す。また、校内教育支援センターでの個別支援を充実させる。	A	○1年生全員にSCによるカウンセリングを行った。また、校内支援センター運用のガイドラインを整備し、利用生徒とその保護者との懇談を継続して実施する等、多様な生徒の支援を進めた。生徒アンケート項目「学校は安心して生活したり相談したりできる場所になっているか」に対して、肯定的な回答をした生徒は90%を超えた。今後も共感的な人間関係や居場所づくり、充実した教育相談を推進する。			
				③	地域と協働したSDGS 学習の推進	外部人材と協働した学習活動を進める。地域連携アドバイザーを活かした探究活動を推進する。	A	○外部講師を招いたキックオフの活動等、生徒が主体的に学べる場を設けた。SDGsやキャリア教育に関わる学校の取組について、保護者アンケートでも肯定的な回答が90%を超えた。今後は、さらに生徒によるアウトプットの場を工夫する。			
				③	地域に貢献できる活動の推進	生徒会活動、総合的な学習の時間、立志太鼓の活動を中心に、生徒の「地域への貢献活動」や「地域に向けた発信」を位置づける。	A	○生徒会を中心とした地域の清掃活動等を実施した。また、本校の伝統である立志太鼓も地域での演奏を2度実施した。さらに、3年生は総合的な学習の時間の出口として、地域への貢献活動や発信活動を位置づけることができた。			
				③	関係機関や関係者と連携した危機管理の徹底	様々な状況を想定した命を守る訓練、アレルギー対応等に対する研修を定期的実施すると共に、迅速で組織的な対応をする。	A	○危機管理や未然防止、早期発見・早期対応の取組に対して、保護者アンケートでは88%の肯定的な回答を得た。アレルギー等の研修では、外部の専門家から学ぶ機会も位置づけ、職員研修の充実と即時複数対応を基本とし取組を進めた。今後も誠実かつ迅速な対応を続ける。			

学校運営協議会における主な評価内容

○ICT機器の活用、自ら選んで交流する場の設定等、授業に工夫がある。今後も自分の意見を伝え合う場を大切にしてほしい。
 ○レジリエンスの取組は子どもたちの現状に合うものである。これまで以上に、個に寄り添い、居場所づくりや心づくりに尽力してほしい。
 ○祭り等、地域の活動に生き生きと参加する子どもの姿が見られた。今後も地域貢献の活動を大切にほしい。